



多田 勉 議員

一問一答方式

市が目指す 森林(もり)づくりとは

市長 林業を産業として 結果につなげる

問.....

森林は遠野の歴史と文化を築き発展を支えてきた。提案する「ふるさとの森を育み木と暮らすまちづくり条例」に期待することは、

答(市長).....

将来に林業を産業として残すことを目的に「森林(もり)づくり支援事業」、「森林資源航空計測事業」、「木づかい事業」等により、川上から川下までの遠野産材利用を強力に進めていく。理念条例ではなく、結果として数字につながるよう取り組む。市内人工林の3割以上が樹齢60年以上で6千ヘクタールを超え、利用期を迎えるこれらの再造林を進めるため、令和3年度から「森林(もり)づくり支援事業」で支援していく。

問.....

住宅産業などのネットワーク構築が必要であり、市内外にも展開するなど着実に成果

答(市長).....

遠野市産木材活用制度を確立し、その活用を促進させる。今後の流通は需要を注視し、適材を適所に流通させ林業全体が経営として成立できる市場を構築していく必要がある。

問.....

林業従事者の人材不足



機械化によって進められる伐採作業現場

問.....

原木しいたけとワサビの産地化確立を更に目指すべきでは。

答(市長).....

未だに放射能の基準値を超えない管理が、

原木しいたけ・ワサビの産地化を

市長 生産者支援を打ち出す



市内原木しいたけ生産者のほだ場(評価の高い若手さん)

求められている。原木しいたけ生産者のほだ木需要に比べ、ほだ木と種駒への助成など支援して原木しいたけ生産量の確保を図る。また、新型コロナウイルスの影響を受ける根ワサビについても生産者への支援を打ち出したい。

学んで 行動する 議会へ

市政調査会

調査日 令和3年1月25日
参加議員 18名

遠野緑峰高等学校の校内プロジェクト発表会を見学

市民センター大ホールで開催されたこの発表会は、全国大会への出場をかけた予選会でもある。

野菜・果樹研究班、作物・畜産研究班、草花研究班そして生活文化コースの班が、地域で生産される農畜産物を現場の生産者と一体



となり取り組んだ発表内容だった。各班が学年を継続して取り組んだ内容やSDGsへの新たな取り組みなど多岐にわたるものだった。

結果は次のとおり。

最優秀賞

規格外品りんごが生み出す地域活性化プロジェクト
伝統野菜「琴畑カブ」

優秀賞

和牛甲子園がつなぐ私たちの新たな道
牛肉の普及を目指した商品開発に向けて作物・畜産研究班7名

優良賞

ホップ和紙の生産とホップ栽培の研究報告
草花研究班 6名

優良賞

開設！キッチンラボ
フードロスを決する身近な方法の研究
生活文化コース5名

その他、情報処理科3年生によるインターネット販売に向けての活動発表、生産技術科1年生の「農業と環境」の研究発表も行われた。どの発表も未来の農業・商業をしっかりと考える内容だった。会場には市内3中学校の皆さんも来場していた。

遠野市では、高校魅力化アクションプランを策定し、様々な面からサポートしている。未来の遠野が活力ある明るいものになるよう応援していきたい。

会長 照井文雄

市民の声

このコーナーでは、市民のみなさまから議会に寄せられたご意見等の一部をご紹介します。

文章は、原文のままですが、長い場合は抜粋して掲載しています。



- 市営住宅に入居中なので(行政改革の一環市営住宅の指定管理)意味が理解できず気になった、面倒な事はいや！ (鶯崎町、66歳、女性)
- わたしのひとこと 毎回楽しみに読んでいます。このコーナーは、私にいい刺激になっています。(中央通り、55歳、女性)
- とても読みやすいです。写真やイラストが良い感じですが、ただちょっと見た感じが『広報遠野』と似ていて少し残念です。もっと議会だよりらしさが欲しいです。(附馬牛町、64歳、女性)